

い
ろ
り
た
丸
事
件

S 16001 1623

REEL No. A-0617





電信課長
藤村

大臣
次官

東亞 歐亞 米洲 通商 條約 情報 文書 調查 人事 文書 會計 秘書官

寫送先

(分類 門 60 項 0 日 12-1)

昭和12 二二九五五 暗 里馬 本省 九月十九日夜着 通、米

廣田外務大臣 藤村代理公使

第六五號ノ一(至急、極秘)

十七日來西班牙「サラマンカ」政府代表(前駐秘西班牙公使)及
獨逸公使ハ交々本官ヲ來訪十八日「カヤオ」寄港ノ川崎汽船ふろ
りだ丸ハ「モリエンド」港ニ於テ「ポリビア」ヨリ積出サレタル
價格百三十萬米弗約二千噸ノ武器彈藥ヲ積込ミ墨西哥國「マンサ
ニヨ」港ヘ運搬シ居ル處右ハ結局西班牙政府軍ヘ仕向ケラルヘキ
モノナルコト確實ニ付何トカ日本側ニテ之カ運搬ヲ禁止又ハ妨害
セラレ度シト申出テ居ルニ付十八日同船長ヲ呼出シ調査セルニ右

件名
諸外國內政係
西土部
内務係

外務省

S 16001 1624

軍需品ハ(續ク)

外務省

S 16001 1625

REEL No. A-0617

大臣
次官

電信課長
本館

東亞
歐洲
米商
通商
條約
情報
文報
調查
人事
文書
會計
秘書官

寫
送
先

昭和12 二二九五八

暗

里馬

本省

十九日前發
九月十九日夜着

通、米

廣田外務大臣

藤村代理公使

第六五號ノ二(至急、極秘)

豫定ヨリ減少セルモ尙武器二百十噸及彈藥等七百四十九噸ニ達シ「
モリエンド」港ニ於テモ既ニ右ハ西國政府軍ヘ送達セラルルモノナ
リトノ風説ヲ聞キタリト述ヘタルカ「カ」港ニ入港スルヤ里馬ニ於
テモ忽チ右風評盛トナリ「ラルコ」名譽領事ハ早速本官ニ對シ祕露
有力者中ニハ共產主義反對ノ日本カ右ノ如キ「バレンシア」政權援
助ヲ許スカ如キハ不都合ナリトノ意見ヲ吐クモノアリト注意シ來レ
リ

外
務
省

S 16001 1626

ニ右獨逸公使等ノ申出ハ日獨防共協定ノ主旨ニ基クモノト認メラル
ル處若シふろりだ丸ニ此ノ儘「マ」港寄港ヲ許ス時ハ當國ノミナラ
ス(續ク)

外
務
省

S 16001 1627

REEL No. A-0617

極秘

電信課長

大臣 次官

東亞 歐亞 米洲 通商 條約 情報 調查 人事 文書 會計 秘書官

寫送先

昭和12 二二九五六

暗 里馬 本省 九月十九日夜着

通、米

廣田外務大臣

藤村代理公使

第六五號ノ三(至急、極秘)

他ノ南米諸國ノ對日感情ヲ害スル惧アリト認メラレ又今日祕露政府
對シ右軍需品ノ祕露沿岸運搬ヲ禁止シ之ヲ「カ」港ニ陸揚ケセシ
ムル様要求スルモ祕露ハ祕「ボ」通商協定ニ依リ「ボ」國ヨリノ積
出荷物ノ沿岸自由通過ヲ許與シ居リ且墨國政府(祕露ニ於ケル「サ
」政權利益代表)ニ恨マルルコトヲ好マス之ヲ受諾セサルヘキニ付
右ハ此ノ際日本側ニテ然ルヘク處斷スル必要アルヘシ
三就テハ本省ニ於テ貴電合第一四七六號ノ三ノ次第モアリ川崎汽船
ニ對シ(續ク)

外務省

S 16001 1628

極秘

電信課長

大臣 次官

東亞 歐亞 米洲 通商 條約 情報 調查 人事 文書 會計 秘書官

寫送先

昭和12 二二九五七

暗 里馬 本省 九月十九日夜着

通、米

廣田外務大臣

藤村代理公使

第六五號ノ四(至急、極秘)

(イ)同船ヲシテ祕露最終港ヨリ直接日本ニ復航セシムカ(ロ)右運送契約
ヲ破棄シテ軍需品ヲ「カ」港ニ陸揚ケセシムルカ又ハ(イ)同船ノ「
マ」港寄港ヲ禁止セラレ次ノ寄港地羅府ヨリ之カ墨國行ヲ妨害シ
得ル場合ニハ同港ニ之ヲ陸揚ケセシムルカ何レカノ方策ヲ取ラル
ル様致度シ同船ハ二十一日出帆ノ豫定ニ付大至急何分ノ儀御回電
ヲ請フ
米へ轉電シ米ヨリ墨、桑港、羅府へ轉電セシム(了)

外務省

S 16001 1629

REEL No. A-0617

比有法云云

(分類)

電 信 案

外 務 省

別ノ好意ヲ寄セテ、凡 伊方利コウ右輸送防
止方申出来ルルガ事、其 旨トシテハ右申出リ
全幅的ニ承諾スベキ地位ニ在ルベク、其旨ノ
通リニ休出降方亦的見起リ、換置度外視
ノ上、其旨ニ 従出港へ回参セシメラル、極力
可ク速ク

S 16001 1633

電 信 案	暗略	電送第	2216	號	主 管
	平略	昭和	12. 9月22日	午後8時30分發	亞米利加局長
外 務 省	第	名 件	丸	以	神
	號	丸	丸	丸	丸
外 務 省	第	名 件 錄 記	丸	丸	丸
	號	丸	丸	丸	丸

昭 和 十 二 年 九 月 二 十 二 日 起 草

22 46

S 16001 1632

REEL No. A-0617

極秘

電信課長

米

大臣

次官

東亞 歐亞 米洲 通商 條約 情報 文報 調查 人事 文書 會計 祕書官

寫送先

昭和12 二三四一八 暗

桑港 本省 九月廿四日後着

通、米

廣田外務大臣

鹽崎總領事

第一三二號（極秘）

大臣發祕露宛電報第四八號ニ關シ

當地川崎汽船代表者有森カ本社ヨリ受ケ居ル情報ニ依レハ差當リ

ろりだ丸ノ「モリエンド」廻航ヲ見合セ荷物積取ノ爲祕露北部ノ諸

港ニ赴ク様同船ニ指令シタル趣ニテ尙同船ハ本日正午「カ」港ヲ出

帆セル由ナリ御參考迄

米、祕、墨、伯へ轉電セリ

外務省

S

16001

1634

REEL No. A-0617

極秘

電信課長

大臣

次官

東亞 歐亞 米洲 通商 條約 情報 文書 調查 人事 文書 會計 秘書官

寫送先

16001-121

昭和12 二三六一八 暗 里馬 本省 九月廿六日後着 米

廣田外務大臣 藤村代理公使

第六七號 (極秘)

貴電第五一號ニ關シ (川崎汽船ふろりだ丸ノ武器輸送ノ件)

ふろりだ丸船長ハ二十二日本官ニ何等ノ相談モナク本社ニ對シ武器ノ「モリエンド」陸揚ニハ相當ノ困難ヲ伴フ旨打電セルカ本官トシテハ右陸揚ハ此ノ際最善ノ策ト存スル次第ニテ船長ノ右打電モ武器輸送上ノ利潤多額ナル關係上出來得ヘクンハ「マンサニヨ」迄之ヲ輸送セントノ希望ニ係ル點相當之アリト認ムルニ付本省ニテモ御注意請フ
米、墨、桑港、羅府へ暗送セリ

外務省

諸外子内政課係事務

六の七は エテシ
十の八は エテシ
換服支店長ヨリ
ミノ根支店ヨリ

S 16001 1635

REEL No. A-0617

電信案

終了の上 積出港のリスレドレへ引取ス

送付に付 水念之

米へ積出すに 米弓 墨、桑港 回維府へ

特中セメシカシ

S 16001 1638

歐亞局 二課 山隆

通商局 二課 山隆

(分類)

暗 電送第 22515 號

昭和十一年九月五日 時 20 分發

宛 在「ハル」

件 川崎汽船會社 船名

名 長丸ノ玉置輸送ニ関

第 五 號 (極秘)

發 廣田方五

主 亞米利加局長 (吉澤)

任 第二課長 (堀本)

昭和十一年九月廿五日起草

電信課 發電係

25 58

和 B

電信案

外務省

桑港 青布大陸 夜中 第一三三二号

同

送り状 丸ハ 秘書 陸北部 へ 積出す

S 16001 1637

REEL No. A-0617

川崎汽船株式会社

S 16001 1642

Suppe	九月二十四日	着
Banano	九月二十五日	着
Chimbe te	九月二十六日	着
Salavery	九月二十七日	着
Ohloana	九月二十八日	着
Pacasamay	九月二十九日	着
Eten	十月一日	着
Mejende	十月十二日	着

ふろりだ丸動靜表

九月二十七日 船 服 支 店 長 杉 野

電信案

外務省

オランダ

オランダ領東印度、荷属東印度、荷属西印度、荷属南洋、荷属北婆羅洲、荷属東婆羅洲、荷属西婆羅洲、荷属南婆羅洲、荷属中婆羅洲、荷属北婆羅洲、荷属東婆羅洲、荷属西婆羅洲、荷属南婆羅洲、荷属中婆羅洲

ナラハ新船ノ多ク荷揚出未本村様ヨリ

ニクアツト又リエドレモノヤ荷揚ニ支障アル様

ナリヌルノト、殊ニキニ休店ノ旨呈スル

欲セザル旨又川崎ノ事、此ノ旨申渡シタル

際ニ到る先石取置ナル此置ノ輸送ハ之ヲ

生ズル也、是レ以テ帝國政府ハ日支事變ニ

(原議用紙乙)

S 16001 1641

REEL No. A-0617

英米利加局長

英米利加局長

昭和十二年十月七日

十月八日 船長 川崎汽船

外務省 御中

拜啓 陳者

「弊社船ふろりだ丸秘露國「モレンド」港積墨西哥行武器彈藥

輸送ニ係ル其後ノ經過御報告ノ件

頭書ニ關シ先般本件ノ經緯委曲御報告申上置候處其後ノ經過左記申上候間御高覽相成度候

左記

十月五日弊社ハ本船々長並ニ弊桑港駐在員ヨリ左記電信各通受電仕候

「ふろりだ丸船長十月五日午後六時十分發電（落石無線經由）「モレンド」積荷

ハ價格百參拾萬弗保險貳百萬弗デ荷主ハ如何ニ金カ、ルトモ揚地行變更サセヌト云フ由」「リマ」其筋ハ已ムヲ得ザレバ伊太利代表ガ此處政府ヲ動カシ得ル

カラ「モレンド」揚荷モ困難ナラヌ様考ヘナル故東京其筋モ同ジト思フ」然シ荷主側ニハソノ「バツク」ニ英米アルト思ハレル、之等ガ蔭デ操ツレバ其筋ノ意向ノ如ク簡單ニハ行カヌト思フ」熟慮善處頼ム」五日朝「エテン」着イタ六日午後荷役済ム」假泊シテ指圖待ツカ返」

「桑港駐在員十月五日午後六時發電
ふろりだ丸武器ホリビヤニ戻スニハホリビヤ政府ガ買戻シセネバナラヌガ夫ハ六ヶ敷イト云ウベルデ揚荷ノパーミット取ルハ容易ラシイカ是トテボリビヤ入國ヲ前提トスルナラン故モレンド揚荷不可能デハナイカバルライソヨリメキシコ政府ガ買手故船戻サヌ様墨西哥公使ニ運動シテ見ヨウカト今日云ウテ來タ何レニスルモモレンド戻シハ考ヘ物デ吾意見ハ何ウシテモマンサニヨ行許サヌナラ何トカロス揚外務省了解得ルカ良イト思ウ」

十月六日弊社ハ夫々左記ノ通り發電仕候
「ふろりだ丸船長宛六日午後六時發電（落石無線經由）「エテン」積切り「モレンド」向ケヨ」委細後」川
「桑港駐在員宛全午後六時發電
ふろりだ丸インターコ宛別電通り當局トハ此上交渉ノ餘地無イ故荷主ニ正式通

S 16001 1644

S 16001 1643

告シ荷受ニ必要ノ手配要求シ荷主ノ確返受ケヨモレンド揚荷手配ハダンホツク
スニモ協力サセ萬全期セヨ萬一邪魔ガ入ツテ問題起ル際ハヘル吾公使モ獨伊代
表ト協力シテ援助スル様當局ト了解シキ居ル含メストツブ手續ニ付テハ今後共
辯護士ト相談遺漏ナキ様ヤ。

「桑港代理店 (Interocean Steamship Co.) 宛 午後六時發電

"Florida Maru arms very much regret to inform you Japanese Government
ordered us abandon further voyage to destination whereas return to
and discharge Mollendo which beyond our control therefore have instructed
captain accordingly stop Request you to notify shippers accordingly and
according to B/L clause request them necessary arrangement in order to
receive shipment Mollendo stop Instruct agents all concerned prepare
arrange accordingly stop Have instructed captain proceed to Mollendo
on completion of loading Eten wire what you have done.

十月七日左記受電並ニ發電仕候

「桑港代理店十月六日午後六時弊社宛發電

"Referring to your telegram of 6th Florida Maru arms have notified
shippers through Mollendo agent have instructed all concerned arrange
accordingly."

「桑港駐在員十月六日午後六時弊社宛發電

ふろりだ丸貴電承知「ダンフオツクス」指圖シタ

「ふろりだ丸船長宛十月七日午後三時發電

昨日吾電モレンド荷物」此處當局ヨリ積戻シ命令受ケタ故桑港ニ電シ事情ビヤ
ンドアワコントロールトシ死クローズニ依リ荷主ニ正式通告シモレンドニテ荷
受手配スル様要求シタ」荷主返未ダ通知ナイカ問題ノ性質上各方面ヨリ相當ノ
邪魔ハイルコトヲ豫想シ桑港吾エセントハ荷主トノ交渉揚地手配ニ萬全期シ居
ル筈」萬一荷主ガ陸揚ゲテ拒ミ或ハ揚ゲ解吾手配ヲ邪魔スル如キ際ハ死クロー
ズニヨリ君ジャシメントニテ適當ノ所ニ揚荷スルコトニナル筈故其際ハ有森エ
セント及吾宛相談セヨ」尙リマ藤村公使モ必要ノ際ハ獨伊代表ト協力シ吾援助
スル様當局ト諒解アル故其含ミニテ善處サレ度シ」モレンド何時着ク豫定カ返」
川

先ハ當用御報告迄申上候

敬具

S

16001

1646

S

16001

1645

REEL No. A-0617

電
信
案

外
務
省

米ハ特等之米リニテ里王、柔佛、同羅、存ハ
轉中セシメラレタシ

S 16001 1648

(分類)

電 信 案	着ノ趣ナリル旨	往中ノ第五三号ノ同シ	おのり左丸ハ却日ヨ結ナリ上ケ十日ヲ又リエントレ	第 四 四 號	電 送 第 四 三 三 三 號	主 管 亞 米 利 加 局 長
					昭 和 十 一 年 十 月 八 日 發	任 第 二 課 長
外 務 省	着ノ趣ナリル旨	往中ノ第五三号ノ同シ	おのり左丸ハ却日ヨ結ナリ上ケ十日ヲ又リエントレ	第 四 四 號	宛 在「ベル」	發 廣 田 大 臣
					名 件 録 記	

S 16001 1647

REEL No. A-0617

亞利和謀長

昭和十二年十月八日

十月十一日
横服支店長 打取

外務省御中

神戸市神戶築港町通三丁目七番地
川崎汽船株式会社



拜啓 陳者

「弊社船ふろりだ丸秘露國「モレンド」港積墨西哥行武器彈藥

輸送ニ依ル其後ノ經過御報告ノ件

頭書ニ關シ昨七日附御報告申上置候處其後ノ經過左記御報告申上候間御高覽相成度候

左記

弊桑港駐在員ヨリ弊社宛十月七日午後六時發電

「ふろりだ丸本日「リマ」ヨリ來電左記「モレンド」エチエントニ打電シタト御參考迄
秘露政府ガ「モレンド」當局ニ打電シテ武器ノ揚荷ヲ禁止シタガ若シ君船到着ト同時
ニ鐵道ガ武器ヲ引受ケル事「ガランチー」シ且爆發物ハ指定ノ場所ニ隔離シ得レバ揚
荷ノ許可ヲ得ラレルカモ知レヌト

ふろりだ丸船長ヨリ弊社宛十月七日午後六時卅分發電

「昨朝電ハ時間遅ク受ケラレズ桑港ニ聞キ合セ指圖受ケタ」國策ノ犠牲トナルモ止ムヲ
得ヌ引返シ無事揚荷終了ヲ念願シツ、六日午後七時モレンド向ケタ「ペル」積ミ大阪
向ケストラツプ三、二五四屯オア二〇屯雜貨三屯桑港行キ砂糖一、〇一三屯電今見タ
一〇日午后着タ、大阪淺井氏カイヤオヨリ乗船中

先ハ當用御報告迄申上候

敬具

S

16001 1650

S

16001 1649

REEL No. A-0617

0400

電 信 案

外 務 省

附子レセシメラシメ

米へ附子レシ米ヲシテ皇土、又米糧、田維、存へ

之

高セハ高揚ノ許可セラル、核根ナリヤ否也

道多社が武器ヲ引受テ且ツ糧米等物ヲ(附)

S

16001

1652

(分類)

電 信 案

外 務 省

S

16001

1651

暗		電送第 24454 號	主 管 亞米利加局長
昭和 年 月 日	時 分	8時40分發	任 主 第 二 課 長
名	宛	左ノハレ	昭和十一年十月九日起草
件	宛	兼お代陸公使	發 廣 田 方 臣
丸ノ右番物送ニ関スル件	川崎造船所並ニ此等所ニあり在		
第 五 六 號	名 件 録 記		

在米糧川崎代表宛ヨリ中社取手取之依
レバ和取取手ハフスレ糧之長山等ニ引レ在
リ左ノ物送ニ關スル件ヲ林不上セル文 録

電信課長

發電係

昭和十一年十月九日起草

印

吉澤

印

七

五

REEL No. A-0617

昭和十二年十月九日

神戸市神戶區榮町通二百四十七番
川崎汽船株式會社
船務部

外務省御中

拜啓 陳者

一、弊社船ふろりだ丸秘露國「モレンド」港積墨西哥行武器輸送ニ係ル其後ノ經過御報告ノ件

頭書ニ關シ昨八日附御報告申上置候處其左記ノ通り發電並ニ受電仕候間御高覽相成度候

左記

弊桑港駐在員宛十月八日午後七時發電

一、ふろりだ丸引返シテ「デビエイション」起リタガ已ムヲ得ザル事由ニ依ル事故既クローズニヨリ荷主ニ通告スレバ「デビエイション」保險ハ荷主ニ於テカバーニスルモノト了解スル、其處「ロイヤル」意見確カメ「インターコ」ヨリ各エゼントニ適當指圖サセヨストツプ

夫ニ從ヒ此處デモ受荷主ニ通知スルストツプ

新「ハーターアクト」ニ依レバ「デビエイション」ニ關スル法律面倒ダガ積荷大部分「アメリカ」ニ關係ナキ事故既條項デ押セルト思フガ意見返ストツプ

昨日電「モレンド」揚荷都合詳細待ツストツプ

弊桑港駐在員ヨリ本社宛十月八日午後五時四十分發電

一、ふろりだ丸グレハム意見ハ貴見通りデ既條項デ「デビエイション」ニ船責任無シ「インタコー」ヨリ適當ノ時エゼント指圖シ荷主エ「ノチス」サセル様スル「モレンド」様子未ダ判ラン

弊桑港駐在員宛十月九日午後五時發電

一、ふろりだ丸明日「モレンド」着クガ漫然船停メヌ様各方面ト充分連絡取り結果判り次第知ラセ七日君電ニ對シ當局ヨリ更ニペル吾公使ニ電シ吾揚荷手配ヲ充分援助スル様依頼シタ旨内示アリタ必要ノ場合ハ連絡取ル様エゼントニ指圖セヨストツプ

S

16001

1654

S

16001

1653

REEL No. A-0617

「デビエイションノチズ」モ船明日着ク事故早く遣ツテハ何ウカ
先ハ當用御報告迄申上候
以

敬具

有森ヨリ七日電来ヲ

ふろり丸七日リマヨリ来電七記モレントウ
代理店ニ打電シタト即参考造レ

ペルー政府ガモレントウ当局ニ打電シテ
武器ノ揚荷ヲ禁止シタガ 君船到着ト
今時ニ鉄道ガ武器ヲ引受ケルニト保証シ
且ツ爆発物ハ指定ノ場所ニ隔離シ得レバ
揚荷ノ許可ヲ得ラレルカモ知レヌ

十月九日午後 服文店ニ打電

S

16001 1656

S

16001 1655

REEL No. A-0617

0403

電信課長

大臣
次官

東亞 歐洲 米商 通商 條約 情報 文書 調查 人事 文書 會計 秘書官

寫送先

密

昭和12 二五五三七 暗 里馬 十一月後發 米、通
本省 十月十二日後着
廣田外務大臣 藤村代理公使
第七二號

貴電第五五號ニ關シ(川崎ふろりだ丸ノ武器輸送ニ關スル件)
ふろりだ丸ハ十日「モリエンド」ニ入港セルモ「ラ、パス」ノ積出
人カ荷物受取ヲ承諾セス又「ポリビア」政府モ本件ニハ何等關係ナ
シト稱シ居ル爲秘露官憲ハ右陸揚ヲ禁止セルニ付十一日外相及海相
ニ對シ其ノ協力ヲ要請セルニ「モ」港ニハ爆發物倉庫ノ設備ナキ爲
同港荷揚ハ絶對ニ不可ナルカ「カヤオ」荷揚ニ付考慮スヘシ但シ陸
揚後日本政府ニ於テ其ノ處分ニ付責任ヲ取ルヤ否ヤカ先決問題ニテ

外務省

S 16001 1657

兎三角最少シ研究ヲ要ストノ意見ニ付十三日(十二日ハ祭日)當國
側ノ決定ヲ聽クコトトセルカ事情右ノ如キニ付先ツ日本政府ニ於テ
右陸揚後如何ナル程度迄責任ヲ取ラルルヤ至急御回電ヲ請フ
米へ轉電セリ
米ヨリ墨、桑港、羅府へ轉電アリタシ

外務省

S 16001 1658

REEL No. A-0617

昭和拾貳年拾月拾壹日

外務省御中

神戸市神戶區榮町通三丁目四十七番

川崎汽船株式會社



拜啓 陳者

「弊社船ふろりだ丸秘露國「モレンド」港積墨西哥行武器輸送ニ係ル
其後ノ經過御報告ノ件

頭書ニ關シ一昨九日附御報告申上置候處其後左記ノ通り發電並ニ受電仕候間御高覽相成度候

左記

「弊桑港駐在員ヨリ弊社宛拾月九日午後六時發電

「ふろりだ丸今日「モレンド」ト「リマ」代理店ニ我ガ公使ト打合セト電シテオイダガ、
吾電ト入レ違ヒニ「リマ」ヨリ左記電入手セリ

「モレンド」曰ク、鐵道ハ斷然武器受取リヲ拒絕ス。又「ダンフォックス」ノ「ポリビ
ヤ」店ノ來電ニ依レバポリビヤ政府鐵道其他交渉セルモ誰モ受取ラン故オリヂナル駈所
持ノ「メキシコ」銀行ヲ通ジ荷主ニ事情通知セリト」

「バルパライソ」モ運動中ダガ今ノ處ペルー政府ガ揚荷拒絕ト云フ事以上ニ進ミ居ラ
ヌ、吾意見ハ之全然吾ガ政府ノ問題ト思フ故外務省通ジ解決セネバ治マルマイト思フ、
萬一揚荷ヲ許可シタ時、質拂戻シ問題デ船押ヘラレル虞レアルガ其場合船遅ラサヌ爲
豫メ御指圖願ウ。

「弊社ヨリ弊桑港駐在員宛拾月拾日午後四時發電

「見タふろ丸結局吾公使斡旋必要ノ様ニ見エルガ君昨電ニ對シ其後「リマ」代理店ガ公
使ト打合セノ結果何等カ打解策出來タカ至急調ベ返、君電不取敢明日當局ニ話シ見ル。

「弊社ヨリふろりだ丸船長宛拾月拾日午後參時發電

「今日迄ノ揚地事情ハ鐵道モ引受ケ斷ハリ「ペルー」政府モ揚荷許可セヌト云フガ、吾

目下ペルー公使ヲ通ジ善後策交渉中」モレンド、エゼントト連絡取リ善處頼ム」川

「ふろりだ丸船長ヨリ弊社宛拾月九日午後七時發電

「見タ」十日正午着ク」着ノ上模様知ラス。

「ふろりだ丸船長ヨリ弊社宛拾月拾日午後參時發電

「此處店云フ「ポリビヤ」政府ガ荷物引取ラズ荷主ハ「メキシコ」ニ居ルカラ引取手無
クスル特殊荷物揚荷ハ此處政府許サヌト云フ由、之ハ唯ノ言譯デ裏ニハ込ミ入ツタ政
治的ノ經緯アリ待ツトモ揚荷許サヌト思ウ。

S

16001

1660

S

16001

1659

REEL No. A-0617

0405

「ふろりだ丸船長ヨリ弊社宛拾月拾日午后四時五分發電

「此處政府揚荷許可セヌ、急ギ指圖乞ウ藤村公使ニ其ノ旨通知。

先ハ當用御報告迄申上候

敬具

以
上

S 16001 1661

REEL No. A-0617

0406

栗利局長



昭和拾貳年拾月拾壹日

十月十一日
櫻服支店長 杉野

歐亞局長



外務省

御中



東京市麹町區丸の内三丁目二十番地
川崎汽船株式會社
瀬脇文壽
正輔代理



拜啓益々御清穆ノ段奉大賀候 陳者

ふろりだ丸搭載武器ノ件

ニ付キ弊桑港駐在員ヨリ弊本社宛十月九日附左記ノ通り電報有之候
ふろりだ丸「モレンド」ト「リマ」代理店（ダンカン、フォックス）
ニ我カベルー公使ト打合せスヘント電シ置イタカ我レ電ト入違ヒニ
「リマ」ヨリ左記電アリタ
「モレンド」日ク鐵道ハ斷然武器受取ヲ拒絕ス又ダンカンフオツク
スノ「ポリビヤ」支店ノ來電ニ依レハ「ポリビヤ」政府、鐵道其他
交渉セルモ誰モ受ケ取ラヌ故オリチナルビー、エル所持ノ「メキシ

川崎汽船株式會社

コ「銀行ヲ通シ荷主ニ事情通知セリト

「バルパライソ」モ運動中タカ今ノ處「ペルー」政府カ揚荷拒絕ト
云フ事以上ニ進ミ居ラヌ我レ意見ハコレハ全然我カ政府ノ問題ト思
フ故外務省ヲ通シ解決セネハ治マルマイト思フ「萬一揚荷許可シタ
時運賃拂戻シ問題テ船ヲ差押ヘラレル惧レアルカ其場合船遅ラサヌ
爲メ線メ指圖乞フ

以上

右ニ依リ弊本社八日附書面並ニ同内容口頭ヲ以テ去ル九日御報告申
上候通り既ニペルー政府ハ武器ノ揚荷ヲ禁止シ且ツ前記ノ電報ニヨ
リ鐵道會社モ同貨物ノ受取ヲ拒絕仕候現狀ヨリ見レハ弊社トシテ貴
省ノ御指圖通り本船ヲ積地モレンドニ引返シ（未タ入電無キモ昨
十日午後八時頃モレンドニ入港ノ筈）萬全ヲ盡シテ揚荷ニ努力セ
シモ前述ノ理由ニヨリコレヲ果シ得サル現狀ニ在リ此上ハ唯日本政
府トシテノ貴省ノ御盡力ニ待ツノミト相成候次第ニ有之候
本問題ノ性質トシテ弊社モ國家的見地ヨリ或ル程度ノ損害ハ負擔シ



16001

1663



16001

1662

REEL No. A-0617

秘

得ヘキモ此上モレンドーニ於ケル揚荷禁止ニ依ル永滞船武器以外ノ
積載貨物ノ揚地到着ノ遅延尙場合ニヨリテハ武器荷主（ビーエル所
持者）ニヨル本船差押其他ニ依ル各損害ハ到底弊社ノ負擔ニ堪エサ
ル處ニテ且ツ弊社トシテ總テノ義務ヲ盡シテ御希望ニ副ヒテ爲シタ
ル總テノ行爲ノ後ニ起ルモノトシテ此ノ點貴省ニ於テ特別ノ御考慮
ヲ御煩サレ度ク奉存候
既述ノ通り本問題ハ一ツニ貴省ノ御取計ニヨリテノミ圓滿解決ノ情
勢ト相成リ候ニ付キ再ヒ茲ニ貴省特別ノ御盡力ヲ御願申上クル次第
ニ御座候
敬 具

（美濃半紙野紙）

本省 十月十二日 着

在秘

藤村代理公使 啓

廣田外務大臣 宛

川崎汽船ノ外務リ丸ハ十日ヲモリエンドレ
ニ到着シタルガイラパスノ積出人ガ該積荷
受取ヲ承諾セズ一方ボリビア政府ニ於テ又
本件ニハ何等關係ナント稱シ居ルヲ以テ
秘露官憲ハ右積荷ノ陸揚ヲ禁止セルニ
付十日外相及海相ニ對シ其ノ決力ヲ要
請セル如クモ港ニハ爆発物倉庫ノ設備

外務省

(11.5)

S

16001 1665

S

16001 1664

REEL No. A-0617

0408

(美濃半截野紙) (1)

ナキニ付同港以荷揚ハ絶對ニ許可シ難キモ
「カヤオ」港以荷揚ニ付新寛スヘシト回答シ
高同港陸揚以於テ日本政府が其ノ要分
ニ如何ナル責任ヲ取ラルハヤが先決^{問題}ナリ
モ免ニ前最^少シ研允シタレトノ意見ナリシ
ニ付十三日當國側ノ決定意見ヲ聽取ス
ルコトトセルが事情右ノ通りナルヲ以テ右陸
揚以日本政府側が如何ナル程度迄責任
ヲ負ハルハヤ至急何方儀申回電ヲ請フ。

外務省

10.5

S

16001

1666

REEL No. A-0617

0409

昭和十二年十月十二日

神戸市神戶港町通三丁目五番七
川崎汽船株式会社
川崎



外務省御中

拜啓 陳者

「弊社船ふろりだ丸秘露國「モレンド」港積墨西哥行武器輸送ニ係ル
其後ノ經過御報告ノ件

頭書ニ關シ昨十一日附御報告申上置候處其左記ノ通り發電並ニ受電仕候間御高覽相成度候

左記

「弊桑港駐在員ヨリ弊社宛十月十日午後十時四十五分發電

「リマ」ヨリハ未ダ返事無イ、明日ハ何トカ判ルト思フ、今日船ヨリ揚荷不許可ノ入報
有リタ。

「弊社ヨリ弊桑港駐在員宛十月十一日午後五時發電

ふろりだ丸揚地並ニ關係各方面情報具ニ當局ニ報告シ出先官憲ヨリモ可然執成シ方懇
請シヨリタルモ事態愈々希望通りニナラザル事明白トナリ吾社トシテハ既ニ万策盡キ
タルヲ以テ此上ハ只當局ノ指圖ニヨリ處理スベキニ就キ何分ノ指圖アリタキ旨具申セ

リ、當局ニハ現地ヨリ未ダ何等報告無キ由ストツブ 右事情ヨリ關係エゼントニ通告シ
ペル公使ニモ如何取計ラハレヨルカ至急確カメ電セヨ、船長ニハ右事情電セリ。

「弊社ヨリふろりだ丸船長宛十月十一日午後五時發電

見タ」吾社トシテハ最早万策盡キタ、事情今日當局ニ報告シ此ノ上ハ當局ノ計ラヒニ
從ヒ處分スルノ外無イ故何分ノ指圖願ヒタキ旨具申シタ」當局ニハ出先公使ヨリ未ダ
報告無キ旨」有森（弊桑港駐在員）ニモソノ旨通知シ各關係者ニ通知方指圖シタガ君
モ右事情含ミ藤村公使ニ照會サレタシ」結果直返」各員心配掛ケ濟マヌ」

「ふろりだ丸船長ヨリ弊社宛十月十一日午後三時廿五分發電

見タ着後公使ヘ電シタガ何等返無シ、此處事情不明指圖待ツノミ。

「弊桑港駐在員ヨリ弊社宛十月十一日午後六時十分發電

ふろりだ丸リマエゼントハ目下公使ト協力シテ武器ヲベルノ特定場所ニ陸揚ノ許可
ペル政府ヨリ得ント努力中但シ結果疑ハシイバルパライソノ來電ニ依レバボリビヤニ
ヲルメキシコ公使曰ク、メキシコ政府ハ此ノ武器ノ買手ナル事「クレキ」且メキシコ
政府ガ必死ニ善後策講ジヨルト又メキシコ政府ノ命ニ依リ買手代表カ明日モレンドニ
行キ佛蘭西船カ露西亞船カ英國船ノ何レカヲ儲船シ積替ヲ目論ンデヨルトウマク行ツ
テモ沖取ト思ウ。

S

16001

1668

S

16001

1667

REEL No. A-0617

次官
 通商局
 第五局長

電 信 案	(分類)	電送第 24961 號	主 管 亞米利加局長
		昭和 12 年 10 月 13 日 午後 6 時 55 分 發	任 主 第二課長
外 務 省	ナントノ理由ハ理解ニ苦ム所ナリ以テ秘密	宛 在ペルー 兼お代理公使	昭和十二年十月十三日起草
		件 川崎造船社々々船 丸ノ到着船名ニ関スル件	發 廣田大臣
政務ノ對シテハ全港揚子許可スル様交		第 五八 號	名件録記
フエイントレ塔ニ積荷セル以上揚子ノ設備			

電信課長

發電係

7
13 71

一 弊桑港駐在員ヨリ弊社宛十月十一日午後八時發電
 リマヨリ來電吾公使今夜吾政府及桑港領事ニ打電今迄ノ經過説明シ今日ベル大臣トノ會
 見結果報告シタト云ウ外務省ニ今一度話シテハ如何、今ノ所揚荷許可ヲ得ル見込薄デエ
 ゼント意見ハ買戻シスルニ非ズバ許可サレマイシ買戻シハ六ヶ敷ト云ウ。
 以上
 先ハ當用御報告迄申上候 敬具

S 16001 1670

S 16001 1669

REEL No. A-0617

昭和十二年十月十三日

外務省御中

神戸市神戶區榮町通三丁目十七番地
川崎汽船株式会社
印

拜啓 陳者

「弊社船ふろりだ丸秘露國「モレント」港積墨西哥行武器輸送ニ係ル
其後ノ經過御報告ノ件

頭書ニ關シ昨十二日附御報告申上置候處其后左記ノ通り發電並ニ受電仕候間御高覽相成度候

左記

「弊社ヨリふろりだ丸船長宛十月十二日午後五時卅分發電

見タ」ペル公使ヨリ當局ニ事情説明ノ電シタ由ナルモ、當局ハ未ダ受取ラヌト云フ」其

ノ結果ニ依リ當局ヨリ何分ノ指圖受ケル筈暫ク待テ」川。

「弊社ヨリ弊桑港駐在員宛十月十二日午後六時十分發電

ふろりだ丸當局ハ公使ヨリ未ダ電受ケヌト云フ。現地デ公使ニ電急イデ貰フ様盡シ呉レ。

「ふろりだ丸船長ヨリ弊社宛十月十二日午後七時廿分發電

見タ」承知指圖待ツ。

「弊桑港駐在員ヨリ弊社宛十月十二日午後五時十分發電

ふろりだ丸」マ指圖シタ此處領事館ニハ入電アツタヌトツブ 紐育ニ居ルメキシコ陸軍

大佐ガ辯護士通シ本船ノ動靜ニ關シ尋ネテ來タ御參考迄

「ふろりだ丸船長ヨリ弊社宛十月十三日午前十時發電

本日公使ヨリ交渉中ニ、三日待テト電アツタ。

先ハ右當用御報告迄申上候

敬具

以上

S

16001

1674

S

16001

1673

REEL No. A-0617

大臣 次官

電信課長

東亞 歐亞 米洲 通商 條約 情報 文書 調查 人事 文書 會計 秘書官

寫送先

A-0617-12-18

昭和12 二五八一八 暗 里馬 十四日後發 本省 十月十四日後着 米

廣田外務大臣 第七五號 藤村代理公使

貴電第五八號ニ關シ(川崎汽船會社船ふろりだ丸武器輸送ノ件)
(一)十三日外相及次官ト會見セルニ軍器ノ祕露國通過ハ別ナルモ其ノ
輸入ハ「カヤオ」港ニ限ル規定ニテ本件「モリエンド」荷揚ハ不
可能ニ付船ハ「カヤオ」ニ廻航スル方良シ又昨日墨西哥大使ハ公
文ニテ右武器輸送ニ困難アル處右ハ同國政府ノ買收セルモノニ付
之ヲ「カヤオ」ニ荷揚シ祕露側ニテ其ノ輸送上便宜ヲ供與セラレ
度シト要請シ來レルカ之ニ對シ日本側ノ意見如何ト質問ス

外務省

S 16001 1675

諸外急内政及至係種々一地方

(二)右ニ對シ本官ハ日本側ハ右「カヤオ」荷揚實現ニテ満足ナリト述
ヘタルニ先方ハ右墨國側介入ニ依リ相當當惑シタモノノ如ク兎ニ
角船ハ「カヤオ」ニ廻航方然ルヘク祕露ノ決定ハ近ク通報スヘシ
ト述フ依ツテ船ニ對シテハ當地代理店トモ打合ノ上「カヤオ」廻
航方指令セリ

(三)目下獨逸及伊國公使ト協力祕露側ニ對シ「カヤオ」荷揚方ヲ力説
シ其ノ後ノ輸送妨害方モ工作中
米ヘ轉電セリ
米ヨリ墨、桑港、羅府ヘ轉電アリタシ

外務省

S 16001 1676

REEL No. A-0617

十月十四日着

藤田外務大臣宛

里馬 藤村代理公使發

(一) 十三日外相ト會見セル處同人ハ秘露國ニハ武器ノ國內通過ハ別トシ其ノ輸入ハ「カヤオ」港ノミニ限ル規定アリテ本件「モリエンド」港荷揚ヘ不可能ナルヲ以テふろりだ丸ハ「カヤオ」港ニ廻航スル方萬事好都合ナルヘシト語リ又十三日在秘墨西哥國大使ハ公文ヲ以テ右武器ハ同國政府ノ買收セルモノナルニ付之ヲ「カヤオ」港ニ荷揚シタル上其ノ輸送方ニ便官ヲ伊與セラレ度シト要請シ來レル趣ナルガ之ニ對シ外相ハ日本側ノ意見如何ト質問シタリ

(二) 右ニ對シ本官ハ日本側ハ右武器ヲ「カヤオ」港ニ荷揚スルノミニテ満足ナリト答ヘタル處秘露側ハ墨國側ノ介入ニ依リテ甚タ當惑シタモノノ如ク乘ニ角同船ハ「カヤオ」港ニ廻航セシムル方官シカルヘク而シテ秘露側ノ決定的回答ハ近ク通報スヘシト述ヘタリ

依ツテ本官ハ直ニふろりだ丸ニ對シ當地代理店トモ打合ノ上「カ

外務省

12.9



16001 1677

「カヤオ」港ニ廻航スル様命令セリ

(三) 尙目下在秘獨逸及伊國公使トモ協力シ秘露側ニ對シ「カヤオ」港ニ荷揚許可方ヲ要請中ナルカ其ノ後ノ輸送妨害方ニ付テモ極力工作中ナリ

は(イ)

外務省

12.9



16001 1678

REEL No. A-0617

昭和拾貳年拾月拾四日

外務省御中

神戸市神戶區榮町通三丁目十七番
川崎汽船株式会社
印

拜啓 陳者

「弊社船ふろりだ丸秘露國「モレンド」港積墨西哥行武器輸送ニ係ル
其後ノ経過御報告ノ件

頭書ニ關シ昨十三日附御報告申上置候處其后左記ノ通り電並ニ受電仕候間御高覽相成度候
左記

「弊社ヨリ弊桑港駐在員宛十月十三日午後六時發電

ふろりだ丸當局宛ベル！公使ノ電ニ依レバモレンド揚ゲ更ニ盡クスモイヨイヨ、イカヌ
時ハカヤオ揚ゲニナルカモ知レヌ、其ノ際ハ直接本船ニ指令スルト云フヌトツツ
本船ヘ右事情電シ置キタ故本船ヨリ公使ノ命令受ケタ旨通知アリ次第政府ノ命令ニ依
リカヤオヘ揚ゲルト荷主ニ通告必要ノ手配サレタシ。

「弊社ヨリふろりだ丸船長宛十月十三日午後六時發電

外務省宛公使ヨリノ電ニ依レバモレンド揚ゲ更ニ盡クスモ愈々イカヌ時ハカヤオ揚ゲ直接
本船ヘ指令スルトトナルカモ知レヌト云フ」君公使ヨリ命令ウケタラ、ソノ指圖ニ從
ヒ同時ニ吾有森ニウナ電スル事トセヨ返。

「弊桑港駐在員ヨリ弊社宛十月十三日午後五時卅五分發電

ふろ丸武器メキシコ政府ガ所有權ヲ得テ自國ノ船デ運ブカ、又ハ軍艦派遣スルラシイ
又政府代表ハカヲオデ揚荷セントシ居ル由入報アリタ、揚荷スルニ付キ質戻シノ問題起
ランラシイト云フモ吾考ヘデハ揚ゲ費用ハ無論ストレイヂ他諸經費一切且ツマンザニ口
迄運ブ費用實費ハ運賃ノ形式デ吾ニ請求シテ來ル虞レアルガベルデ揚ゲル際何處迄ノ費
用吾持チカ貴見返。

「弊社ヨリ弊桑港駐在員宛十月十四日午後五時發電

ふろりだ丸政府命令ニヨリ揚荷スル以上既條項ニ依リ質拂戻シクレーム拒絶シ且ツ船卸
ト全時ニ吾責任一切解消スル此ノ點辯護士ト相談準備シオク様襲ニ指圖シオイタ管辯護
士意見返、吾昨電公使ヨリ揚地指圖急イデ貴フ様計ヒ吳レ。

先ハ右御報告迄申上候

敬具

以上

S

16001

1680

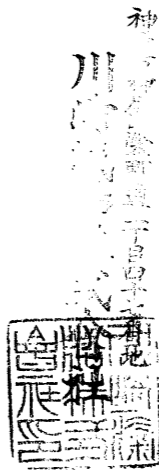
S

16001

1679

昭和拾貳年拾月拾五日
十月十日
川島海軍少将
海軍大臣
杉本

外務省 御中



拜啓 陳者

「弊船ふろりだ丸秘露國「モレンド」港積墨西哥行武器輸送ニ係ル
其後ノ經過御報告ノ件

頭書ニ關シ昨十四日附御報告申上置候處其后左記ノ通り發電並ニ受電仕候間御高覽相成度候

左記

「弊桑港駐在員ヨリ弊社宛十月十四日午後五時四十分發電

ふろりだ丸グレハム意見ハ政府ノ命デ船ヨリ揚ゲタラ吾責任ハ既條項ニ依リ其場デ全
部解消スル事無論ダ我昨日電意見ハ法律上責任有ル無シデナク武器ヲ既ニ墨西哥政府
ノ物デアル以上今後モ我船メキシコ沿岸寄港スル故政策上カラ君指圖隔イテ見タダケ
御意見如何ストツブ 日本政府ノ命ニ依リ今朝公使船ニテラオ行命ス。

S 16001 1681

「ふろりだ丸船長ヨリ弊社宛十月十四日午後六時五十分發電

見タ」承知

「ふろりだ丸船長ヨリ弊社宛十月十四日午後十一時廿七分發電

十四日朝公使ヨリ電來タ荷揚ゲハモレンドニテ不可能、カラオニテノ可能ヲルニ付
キ同港迄廻航セラレ度シ右日本政府ノ命ニ依リ指令ス日本公使 ストツブ 十六日朝
カラオ着ク豫定

「ふろりだ丸船長ヨリ弊社宛十月十五日正午發電

后十時ニナルモ出港免狀取レヌ、事情後電。

「弊社ヨリ弊桑港駐在員宛十月十五日午後一時發電

「フ口丸貨ノ件君意ノ有ル所ハ充分考ヘ居ルカ第ニ段ノ事トシテ一應ハ既タロ、フノ法
的解釋ヨリ吾立場ヲ既所有者ニ明確ニ認識セシメ置カネバナラン從ツテロイヤ！モ吾
意見賛成ナラ昨電通リ取扱フ事トシテ配シテ呉レ、尙荷主態度注意シテ變ツタ事有レ
バ直グ知ラセ。

先ハ右當用御報告迄申上候 敬具

S 16001 1682

本朝九時
電報了りし由

(分類)

電 信 案	外 務 省	此の旨如き事知社へ申し附り自由を依り 解任 又レ情状如多社之知事等が 丸い書物送る同様に件 第 六〇 號 昭和十一年十月十二日起草	主 亞米利加局長 任 第二課長
			電送第 25380 號 昭和十一年十月十六日 午後七時三十分發 宛 在「ヨール」 廣田 ちよ子 發 廣田 ちよ子 名 件 録 記

S 16001 1684

昭和拾貳年拾月拾五日

外務省 御中

川崎汽船株式會社 東京支店

ふろりだ丸武器ノ件

拜啓愈御清穣之段奉拜賀候陳者本船ヨリ左記入電有之候ニ付キ
 御參考迄ニ御報告申上候

十四日(藤村)公使ヨリ電來タ「荷揚ハモレンドーニテハ不
 可能カイヤオニテハ可能性アルニ付キ同港迄廻航セラレタシ
 右日本政府ノ命ニ依リ指令ス日本公」十六日朝カイヤオ着ク
 豫定

以上

S 16001 1683

REEL No. A-0617

電
信
案

外
務
省

方々交傳を以て
其ノ稱謂ニシテ其ノ旨ニ
異工、其ノ境、其ノ難
入、其ノ難

S

16001 1685

REEL No. A-0617



昭和拾貳年拾月拾六日
十月十日
川崎汽船株式會社
社長 杉本 哲夫

神戸市神戶區栄町通二丁目四十七番地
川崎汽船株式會社
印

外務省 御中

拜啓 陳者

弊社船ふろりだ丸武器ノ件

頭書ニ關シテハ昨拾五日附御報告申上置候處其后左記ノ通り發電並ビニ受電仕候間御高覽相成度候

左記

一 弊社ヨリふろりだ丸船長宛十月十五日午后四時發電

見タ貴電待ツ。

一 ふろりだ丸船長ヨリ弊社宛十月十五日午后四時發電

Peru Government permission not given to proceed to Callao will inform you at once obtained permit.

一 弊桑港駐在員ヨリ弊社宛十月十五日午后九時七分發電

ふろりだ丸貴電承知、秘露當局ガカラオ廻航ヲ許サヌ爲船未ダモレンド居ルラシイガ
リマ來電デ今日許可有ツタ故モレンド、エジエント指圖シタト云フ。

先ハ右御報告迄申上候

敬具

以上

S 16001 1687

S 16001 1686

REEL No. A-0617

寫送先

東亞 歐亞 米洲 通商 條約 情報 文書 調查 文人 會計 會社 秘書官

大臣 次官

電信課長

昭和十二年十月十八日

昭和 12 二六六四四 暗 里馬 二十日後發 米
 本省 十月廿一日後着

廣田外務大臣 藤村代理公使
 第七七號

往電第七五號ニ關シ

一先般來外務次官ハ本官ニ對シ祕露ハ内心ハ日本同様共產主義反對
 ニテ本件武器ノ墨西哥到着ヲ希望セサルモ何分之カ同國官有物ナ
 ル以上公然之ヲ防害スル譯ニ行カス日墨兩國ニ都合好キ解決方法
 研究中ナリト語り居リタル處十九日墨國側ニ對シテハ武器ノ陸揚
 ハ國內不穩分子ヲ刺戟シ危險ニ付同國ヨリ「カヤヲ」ニ汽船ヲ派
 遣シ同港外ニテ直接船ヨリ船ヘ積移シヲ爲ス様勸說セルヲ以テ未

外務省

S 16001 1689



昭和十二年十月十八日

川崎汽船株式



外務省 御中

拜啓 陳者 弊社船ふろりだ丸武器ノ件

頭書ニ關シテハ一昨十六日附御報告申上置候處其后左記ノ通り
 受電仕候間御高覽相成度候

左記

一ふろりだ丸船長ヨリ弊社宛十月十六日午後六時卅分發信十四日カラ
 才廻航ノ指令受ケルヤ直グ此處官憲ニ出港手配セルモ其ノ日許可サ
 レズ十五日リマ官憲ガ許サヌヲ確カメリマ代理店ノ公使館ニソノ旨
 通知手配セルモ未ダ許サレヌ

二ふろりだ丸船長ヨリ弊社宛十月十六日午前〇時發電十六日夜カラオ
 向ケタ

先ハ右御報告迄申上候 敬具

S 16001 1688

REEL No. A-0617

極秘

電信課長

大臣

次官

寫送先

東亞 歐亞 米洲 通商 條約 情報 文化 調查 人事 文書 會計 祕書官

タ其ノ回答ニ接セサルモ日本側モ右ニ同意アリ度シト述フ
 三二十日墨西哥大使ノ命ニ依ル趣ヲ以テ同書記官來訪墨國側ハ仕方
 ナケレハ「カ」港ニ汽船ヲ派遣スヘキモ右武器ハ其ノ官有物ニ付
 日墨間ニテ之ヲ圓滿ニ解決シ度シト述ヘタルニ付日墨間ノ交渉ハ
 本官ノ權限外ナリト挨拶シ置ケリ
 三當方ニテハ此ノ際墨國側ノ出様ヲ見ル一方祕露側ニハ更ニ陸揚ノ
 交渉ヲ續クルヨリ外ナキモノト認メラルル處右ニ付何分ノ儀御回
 訓ヲ請フ（了）

外務省

S 16001 1690

昭和12 二六六八二 暗

墨西哥 二十日後發
本省 十月廿一日夜着

米、通

廣田外務大臣

越田公使

第一三八號（極秘）

在祕露公使發貴大臣宛電報第七一號ニ關シ
 墨國政府ハ武器（右ハ墨國政府ノ使用スルモノナリト稱シ居レリ）
 積取ノ爲係官及特別列車ヲ「マンサニヨ」ニ派遣シタルモふろりだ
 丸未着ノ爲ニ面目ヲ失シ政府ハ相當憤慨シ居ル模様ナル處「コレヲ
 「検査問題ニ關シ當館ハ衛生局ヨリ了解ヲ取付ケタルニ拘テス外務
 省ハ關係領事等ヘノ訓令ノ發送ヲ濫リタルカ如キハ右武器問題ニ付
 含ム所アリタルヤニモ考ヘラル尤モ墨國ハ途中ノ危險ヲ考ヘ約五箇

外務省

S 16001 1691

月以前ヨリ西班牙政府軍向ケ武器ノ輸送ヲ爲サス何レモ「ベラクル
ス」港ニ山積セラレ居ル趣ニテ「目下西班牙政府船舶二隻「ベラク
ルス」ニ碇泊シ居ルモ出帆シ得ス」從テ「ボリビア」ノ武器ヲ墨西
哥ニ輸送スルモ直ニ西班牙ニ轉送セラレテ軍事行動ニ使用セラルル
カ如キハ疑問ト認メラルル日墨間ニ種々重大ナル交渉案件ヲ控エ居ル
今日之カ爲兩國國交上種々ノ支障ヲ生スルカ如キコトアリテハ面白
カラサルノミナラス今後日支事變ノ發展ニ伴ヒ本邦カ墨國ヨリ軍需
關係ノ物資購入ノ際報復セラルルノ惧ナシトセサルニ付此ノ種問題
ニ對シ本邦ノ介入ハ極力回避スルコト得策ト思考ス
米、秘、桑港、羅府へ轉電セリ

外
務
省

S

16001 1692

REEL No. A-0617

0423

昭和十二年十月廿日



外務省御中

神戸市神戶港町道三丁目十七番地
川崎汽船株式会社



拜啓 陳者

弊社船ふろりだ丸武器ノ件

頭書ニ關シテハ一昨十八日附御報告申上置候處其后左記ノ通り受電仕候間御高覽相成度候

左記

- 一 一ふろりだ丸船長ヨリ弊社宛十月十八日午後六時卅分發電
十八日晝カラオ着ク揚荷出來ルヤ未ダ判ラヌ。
- 一 一ふろりだ丸船長ヨリ弊社宛十月十八日午後八時發電
揚荷未ダ未定委細後電。
- 一 一ふろりだ丸船長ヨリ弊社宛十月十九日午後六時廿五分發電
未ダ分ラヌ、分レバウナ通知。

以上

先ハ右御報告迄申上候

敬具

S 16001 1694

S 16001 1693

REEL No. A-0617



電 信 案

外 務 省

予しリタン

告げ世側面より援助ヲホマシテ強ク本回

之ノ致ハ世々トマンサニヨレニ違ハセシル外ナキ

交渉セラシムク其独伊ニ使ヲ送ルハ揚子河

總署ニ之ヲ成ナルニ付今一任秘録海防

S 16001 1696

REEL No. A-0617

歐亞局長
 通商局長
 通商二課長

(分類)

暗	電送第 45982 號	主 管 亞米利加局長
昭和 12.10.22 日 11時30分發	宛 在パル 兼 代理公使	主 任 第二課長
件 川崎汽船会社ヨリ船名カ 名 丸ノ名目物送ニ關スル件	發 廣田右臣	昭和十二年十月二十日起草
第 一 號	名件録記 (大正三)	22 3
外 務 省	電 信 案	

第七七号ノ圖シ

斯ルニト云々スルハ甚ダ諷解

之ガ世々トマンサニヨレニ違ハセシル外ナキ

S 16001 1695

昭和十二年十月廿二日

神戸市福屋町通三丁目四十七番
川崎汽船株式会社



外務省御中

拜啓 陳者

弊社船ふろりだ丸武器ノ件

頭書ニ關シテハ一昨廿日附御報告申上置候處其後左記ノ通り發電並ニ受電仕候間御高覽相成度候

左記

一 弊社ヨリふろりだ丸船長宛十月廿日午後五時發電

何時迄モ埒明カンデ困ル故公使ニ交渉急イデ貰フ様頼ミ呉レ、當局ヨリモ督促方依頼シ置イタ。

一 ふろりだ丸船長ヨリ弊社宛十月廿日午後三時四二分發電

公使モ努力中此處店日ク揚荷望ミ薄今交渉中ノ積換ノ外他ニ方法無イ。

一 弊柔港駐在員ヨリ弊社宛十月廿日午後六時六分發電

ふろ丸八月曜カラオ着イタガ未ダ揚荷許サレヌ望ミ薄トリマ云フ。

一 ふろりだ丸船長ヨリ弊社宛十月廿一日午後七時發電

此處當局「解決ノ時期モ長クナイトノ見込ラシイ。

先ハ右御報告迄申上候

敬具

以上

S 16001 1698

S 16001 1697

REEL No. A-0617



要約

吉

昭和拾貳年拾月廿貳日

外務省 御中



川崎汽船株式會社
社長 鑄谷正輔 代理
瀬脇文壽



拜啓愈御清榮之段奉拜賀候 陳者

弊社船ふろりだ丸武器ノ件

先般來御報告申上候通り本船去ル十八日カイヤオ港到着問題ノ
武器揚荷準備萬端遺漏ナキ手配仕居候處數日後ノ現在迄ペル
政府ハ揚荷ノ許可ヲ與ヘス空シク港内ニ待期致シ居ル次第ニ有
之候過日藤村代理公使モペル一國外務大臣トノ御協議ニ際シテ
ハカイヤオ揚ニ付キ同大臣モ御賞成相成候様聞及ヒ居候ニモ不
拘未タニ前述ノ如キ有様ニテハ本船モ日ヲ増ス毎ニ滯船料嵩ミ

川崎汽船株式會社

S

16001 1699

且ツ武器以外ノ現在積荷揚地着遅延ノタメニ起ル受荷主ノ手違
而シテコレヨリ起リ得ヘキ損害賠償其他事態益々紛糾ヲ免レサ
ル可ク貴省ノ御要求ニ依リ善處セシ弊社ノ負擔モコレ以上堪エ
不得情況ニ有之コノ際貴省ニ於テ斷固タル御責任アル御處致仰
キ度ク茲ニ最後のノ御指圖期待仕居候

敬具

川崎汽船株式會社

S

16001 1700

REEL No. A-0617

電 信 案

外 務 省

旨：鑑之且今次支那事變ニ特別ノ
 係り本者ニ於テハ日獨防共協定ノ趣
 之カ違搬ヲ禁止セラレテ申出タルニ
 奇ニ仕向ケラル、モノナルニ付日本側ニテ
 藤村代理公使ニ對シ右武器ハ「バレンシア」政
 表（前駐秘西班牙公使）及獨逸公使ハ
 搬中ノ途在秘露西班牙「サラマンカ」政存氏

S 16001 1702

(原議用紙乙)

(分類)

電 信 案

外 務 省

電 送 第 26169 26170
 昭和 12 年 10 月 23 日 時 20 分 發
 宛 名 獨 武 者 少 路 大 使
 廣 田 大 使
 名 件 錄 記 發 廣 田 大 臣
 合 第 二 二 七 九 號 ()

九月中旬川崎汽船ぶろりだ丸ハ秘露モ
 リエンド「港」ニテ「ホリピア」國ヨリ積出サレタル
 武器及彈藥ヲ單々團「フンサニリヨ」塔へ運

昭 和 十 二 年 十 月 二 十 三 日 起 草

S 16001 1701

REEL No. A-0617

御参考送
 力目下右場荷ニ関シ交渉セシメ居ル
 ルニ付藤村ヲシテ左記獨伊公使ト協
 其ノ荷揚ヲ容易ニ許可セサル様ナ
 送荷揚セシムコトセルモ
 送荷揚セシムコトセルモ
 モアリ川崎ヲシテ同船ヲ積出港ヘ出
 好意ヲ寄ラセテアル伊國側ヨリ申出

(原議用紙)

電信案

外務省

昭和十二年十月廿三日

外務省御中

神戸市福屋橋町通三丁目十七番地
川崎汽船株式会社

拜啓 陳者

弊社船ふろりだ丸武器ノ件

頭書ニ關シテハ昨日廿二日附御報告申上置候處其后左記ノ通り受電任候間御高覽相成度候

左記

一ふろりだ丸船長ヨリ弊社宛十月廿二日午後十一時五九分發電
愈々解決モ近キ見込東京ト連絡判リ次第知ラセ。

先ハ右御報告迄申上候

敬具

以上

S 16001 1704

S 16001 1703

REEL No. A-0617

電信課長

大臣

次官

東亞 歐亞 米洲 通商 條約 情報 文化 調查 人事 文書 會計 祕書官

寫送先

昭和12 二七一七 暗

里馬 本省 十月廿六日後着

米

廣田外務大臣

藤村代理公使

第八一號

貴電第六二號ニ關シ（川崎汽船「フロリダ」丸武器輸送ノ件）

二十五日再ヒ外相ニ交渉セルモ陸揚方同意セス且墨國ハ既ニ汽船

ヲ「カヤオ」向出帆セシメタリ（外務省ニテ行合セタル墨西哥大

使ハ右ノ事實ハ知ラスト述ヘタリ）ト語り現在陸揚ハ不可能ト認

メラルル處獨、伊兩國公使モ今ヤ諦メ居レリ

ニ右墨國汽船出帆ノ眞偽ハ不明ナルカ右至急解決ノ必要アラハ此ノ

際墨國側ヨリ政府使用物ナリトノ照約ヲ取付ケ之ヲ「マンサニ

外務省

S

16001 1705

ヨリニ輸送スルトスルモ當方面ニテハ別ニ故障ハ生セサルヘシト
思考ス

米、墨へ轉電セリ

墨ヨリ桑港、羅府へ轉電アリタシ

外務省

S

16001 1706

REEL No. A-0617

0430

昭和拾貳年拾月廿五日

外務省御中

神戸市神戶區榮町通三丁目四十五番地
川崎汽船株式会社

拜啓 陳者

弊社船ふろりだ丸武器ノ件

頭書ニ關シテハ一昨貳拾參日附御報告申上置候處其后左記ノ通り發電並ニ受電仕候間御高覽相成度候

左記

一 弊社ヨリふろりだ丸船長宛十月廿三日午後五時發電

見タ當局ト連絡トリ最善盡クシ居ル後二、三日中ニ何トカ見込ツク模様其處様子判レバ通知頼ム。

一 ふろりだ丸船長ヨリ弊社宛十月廿四日午後三時三十分發電

極秘「二〇日頃メキシコ政府ハ武器ガ同國政府ノモノナルヲ直接日本政府ニ述べ此ノ儘輸送セラル様諒解ヲ求タル形跡アリ」日政府ノ此ノ公式申出ニ對スル處置ハ唯一ツ

ノ他無キ故今後ノ交渉モ解決モ東京ニ移レリト思フ」此處揚荷交渉繼續中ナルモ見込無シ。

先ハ右御報告迄申上候

敬具

以上

S 16001 1710

S 16001 1709

REEL No. A-0617

電信案
外務省

リ差支ナキ旨傳ヘラレタシ
米墨へ轉電シ墨ヨリ桑港羅所
へ轉電セシナラレタシ

S 16001 1712

次官
歐亞局長
通有局長

(分類)

電 信 案	暗 平 階	電 第 26481號	主 管 亞 米 利 加 局 長
		昭和 12 10 26 日 發 7 時 10 分	任 第 二 課 長
外 務 省	第 六 四 號	名 件 フ ロ リ ダ ル 武 器 輸 送 ニ 關 ス ル 件	宛 左 秘 藤 村 代 理 公 使
		名 件 錄 記	發 廣 田 大 臣

取付ノ上船長ニ對シ自由行動ヲ執
貴電第八一號ニ關シ
(二)ノ貴見通り墨國側ノ明約

S 16001 1711


電信課長
發電係
昭和十二年十月廿一日起草

26 62

REEL No. A-0617

昭和十二年十月廿六日

外務省御中

神戸市兵庫区築町通二百四十七番
川崎汽船株式会社


拜啓 陳者

弊社船ふろりだ丸武器ノ件

頭書ニ關シテハ昨廿五日附御報告申上置候處其后左記ノ通り發電並ニ受電仕候間御高覽相成度候

左記

一 弊社ヨリふろりだ丸船長宛十月廿五日午後五時發電

見タ是非一兩日中ニ解決サス様當局ニ強硬懸合中、大勢マンサニヨ揚巴ム無シト見テ居ル其處事情返

一 ふろりだ丸船長ヨリ弊社宛十月廿五日午後十時八分發電

此處政府ノ方針變ラヌ其處早ク極メル機努力乞ウ。

以上

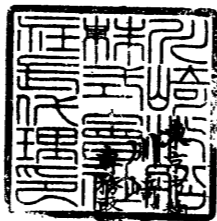
先ハ右當用御報告迄申上候

敬具

16001 1713

昭和拾貳年拾月貳拾六日

外務省御



川崎汽船株式会社
船長 瀨脇文壽
正輔 代理

ふろりだ丸武器搭載ノ件

拜啓愈御清祥之段奉拜賀候 陳者

本船九月拾五日問題ノ武器ヲ搭載モレンドー出帆以後四拾餘日ヲ經過致シ(其間貴省ノ御了解ヲ得テペルー東北岸數港ノ積荷ニ多少ノ日數ヲ費シ候モ)未タニ何等本件解決ノ曙光スラ見エス誠ニ遺憾至極ニ奉存候殊ニカイヤオ港揚荷ニ關シテハ藤村代理公使トペルー國外務大臣トノ間ニ了解ツキシ様ニモ仄聞仕候ニモ不拘拾八日全港到着以來八日ヲ經未タ解決通知ニモ不接本船積他貨物ノ受荷主モ揚地到着遅延ニ對シ苦情ヲ持込ミ僅カニ其ノ

川崎汽船株式會社

16001 1714

REEL No. A-0617

寛容ヲ願ヒ居リ且本船滞船料モ既ニ莫大ノ額ニ達シ居ル有様ニ
テ弊社貴省ノ御希望ニ從ヒ本日迄善處ニ最大ノ努力ト犠牲ヲ拂
ヒ居リ候モ乍遺憾目下ノ状態ニ於テハ「貴省ニ於テ本件ニ關シ
總テノ責任ヲ負ハルル」カ「弊社獨自ノ立場ニ於テ最善ト考慮
スル方針ヲ斷行スル」カノ二ツノ一ツヲ採ラサルヲ不得立場ト
相成候
就而右二條件ニ付テ早速御回答賜度奉懇願候

謹言

川崎汽船株式會社



16001

1715

REEL No. A-0617

0435

栗利石環

昭和拾貳年拾月貳拾七日

外務省御中

神戸市神戶區榮町通三丁目十七番
川崎汽船株式会社



拜啓 陳者

一 弊社船ふろりだ丸武器ノ件

頭書ニ關シテハ昨廿六日附御報告申上置候處其后左記ノ通り發電並ニ受電仕候間御高覽相成度候

左記

一 弊社ヨリふろりだ丸宛十月廿六日午後六時發電

藤村公使ノ諒解ヲ得テ君獨自ノ考ヘトシテ既懸ノコース向ケ速時出港セヨ、揚地後知ラス。川汽船

一 ふろりだ丸船長ヨリ弊社宛十月廿六日午後七時卅三分發電

廿七日后發令受ケル予定。

以上

先ハ右當用御報告迄申上候

敬具

16001 1717

16001 1716

REEL No. A-0617



川崎汽船株式會社



昭和拾貳年拾月廿八日

外務省御中

神戸市兵庫區築町通三丁目十七番地
川崎汽船株式會社

拜啓 陳者

弊社船ふろりだ丸ノ件

頭書ニ關シテハ昨廿七日附御報告申上置候處其后左記ノ通り發電並ニ受電仕候間御高覽相成候

左記

一ふろりだ丸船長ヨリ弊社宛十月廿七日午后三時一分發電

廿八日指令出ル見込。

一弊社ヨリ弊桑港駐在員宛十月廿七日午后六時發電

ふろりだ丸引續キ現地交渉埒明カズ當局モ正式指圖出來ヌ立場ニ有ルモ吾此レ以上ノ損害負擔忍ビ難キ故吾獨自ノ立場ヨリ處分スル事公使ノ了解得テカヤオ出港スル様本船本指圖シタ、都合デ揚地後電スルコトニナリ居ルモ予定通りノ港デ揚ゲル意向爲念。

一弊社ヨリふろりだ丸船長宛十月廿八日午前九時五十分發電

見タ此處當局ト了解アル故公使指令無クトモ廿六日吾電通り直チニ出港セヨ返。

先ハ右當用御報告迄申上候

敬具

以上



16001 1719



16001 1718

REEL No. A-0617



電信課長

大臣
次官

東亞
歐亞
米洲
通商
條約
情報
文書
調查
人務
文書
會計
會社
秘書
官

寫
送
先

林

(分類 16.0.0-1-12-1-1)

昭和12 二七六二〇 暗 里馬 廿九日後發 米
本省 十月三十日前着

廣田外務大臣 藤村代理公使

第八五號

貴電第六四號ニ關シ(ふろりだ丸武器輸送ノ件)

二十七日墨西哥大使ニ面會セルニ自分ニ於テ明約ヲ與フルコトハ差
支ナキモ或ハ本國政府ニ於テ「カヤオ」向汽船ヲ派遣中ナルヤモ知
レスト語り早速其ノ意嚮ヲ電照シタル趣ナルカ今日迄回答ナシ就テ
ハ右明約取付方ハ在墨公使ヲシテ交渉セシメラルルコト解決早シト
存スルニ付可然御訓令ヲ請フ
墨へ轉電セリ
墨ヨリ米、桑港、羅府へ轉報アリタシ

外
務
省

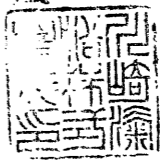
S 16001 1720

REEL No. A-0617



昭和十二年十月廿九日

神戸市福屋町通三丁目四十七番地
川崎汽船株式会社



外務省御中

拜啓 陳者

弊社船ふろりた丸武器ノ件

頭書ニ關シテハ昨廿八日附御報告申上置候處其后左記ノ通り發電並ニ受電仕候間御高覽相成
度候

左記

「ふろりた丸船長ヨリ弊社宛十月廿八日午後三時三〇分發電

見タ」貴地公使メキシコ大使ト會見質疑ノ點アリ、發令廿八日午後トナル見込。

「弊社ヨリ弊桑港駐在員宛十月廿八日午後六時卅分發電

ふろ丸ヨリ廿八日公使指令出ルト見込電來タガ當局ノ諒解得タ故公使ノ指令トクトモ
直チニ予定通り出港スル様指圖シタ君ヨリモ船ト連絡取り動靜注意乞ウ。

「ふろりた丸船長ヨリ弊社宛十月廿八日午後七時四四分發電

此處當局ハ公使ノ指令ナケレバ出港許可セヌ、公使ハ外務メキシコカラ船來ルト聞イ

テ大使確カメ其ノ事實無ケレバ指令出スト云ウ今照會中、コチカラ問題ヲ作り出ラレ
ヌ様ナルト悪イカラ其處當局カラ此處公使ニ指令出ス様手配乞ウ。

「弊社ヨリふろりた丸船長宛十月廿九日午後三時發電

此處當局ハ川崎獨自ノ行動ヲ認メタ故船出ス様公使ニ指圖シタ故直ク出セホビケバ邪
魔入ル故急ギ運ベ返。

以上

先ハ右當用御報告迄得貴意候

敬具



16001

1724



16001

1723

REEL No. A-0617

0440

電信案

外務省

付ケルニ、標致度シ
果ト、轉電シ思ヒラシテ、又第電、羅所、轉報セシメラシ

16001 1726

REEL No. A-0617

(分類)

通商局長

歐亞局長

次官

電話第 27196 號
昭和 12 年 10 月 30 日 午後 9 時 30 分發

主 管
亞米利加局長

主 任
第二課長

昭和十二年十月三十日起草

電信課

發電係

30

電信案

外務省

貴電第六四号ニ差シ	在叙	發
假令里和船差向ケルニ、トモニ之ニ、武器ヲ引渡ス必西キキラ	甘味村代理公使	廣田大臣
以テ此際、急ニ、ふろく丸ヲ出航方配慮アリ、然レ後、明約取	ふろく丸武器輸送件	名件録記
	第 六七 號	

S

16001 1725

地